

# 令和5年度 広報委員会 行政視察報告書

1. 視察日程 令和5年5月19日（金）

2. 視察先及び視察内容

知立市議会

議会出前講座について

議会広報紙の編集及び発行について

インターネット等を活用した会議公開について

3. 参加者

委員長	<u>辻川 公子</u>			
副委員長	<u>永井 誠一</u>			
委員	<u>高木 理文</u>	<u>川上 秀範</u>	<u>林 義浩</u>	
	<u>神野 義孝</u>	<u>田代 耕一</u>	<u>小林 恵美子</u>	
	<u>杉山 護</u>			
事務局	<u>岩田 晴美</u>	<u>浅子 菜美</u>		

4. 視察先対応者

知立市議会	議長	<u>中野 智基</u>
	議員	<u>杉浦 弘一</u>
	議員	<u>石川 智子</u>
	議員	<u>田中 健</u>
	事務局課長	<u>澤田 直樹</u>

## 5. 視察内容

- 『議会出前講座について』
- 『議会広報紙の編集及び発行について』
- 『インターネット等を活用した会議公開について』

令和5年5月19日（金） 13：30～16：00

### 《視察研修の目的》

知立市議会の広報活動について視察する。

### 《視察先の概要》

知立市の面積は16.31km<sup>2</sup>で、県のほぼ中央に位置し、名古屋25km圏内にある。江戸時代には東海道の池鯉鮒宿が置かれ、馬市や木綿市の市場町であった。現在は主要国道が通り、知立駅に名鉄名古屋本線と三河線が乗り入れるなどの利便性から、名古屋市、豊田市、刈谷市などのベッドタウンとなっている。人口は約7万2千人余、世帯数約3万2千世帯余のコンパクトシティである。

知立市議会の発足は昭和45年12月1日で、議員定数は20人。企画文教委員会のほか4つの常任委員会に加えて、議会運営委員会と2つの特別委員会がある。

### 《視察内容》

#### ① 議会出前講座について

- ・経緯、内容、評価、課題
- ・タウンミーティングを含む今後の取り組み、方向性

知立市は生涯学習宣言をし、市全課が市民に説明をすることが基本原則の中、議会も議会基本条例18条を準拠として、議会の改善を図る為。各委員会が積極的に出前講座や懇談会等を行うとしてあり、行政の出前講座に習って議会の仕組みを話したが、市民は望んでいなかった。その後、委員会座談会を開催し、市民との意見交換会を開催した。

議会出前講座は、常設の議会改革特別委員会が担当テーマは各常任委員会が選定し年2回ほど実施している。

市民は自分の希望する委員会に参加をし、対面式で実施し、グループワークでまとめたものを最後に市民の方から発表していただく。

オンライン委員会は過去2回開催をした。

議会報告会も実施しているが、市民から自由に直接話を聞く事が出来る。

未来志向の形で話し合いをする。また市民の声を政策の種にできる。

タウンミーティングを年4回実施。議会報告会のうち1回をタウンミーティング形式で開催。

高校生議会では、市内の3つの高校と座談会方式で参加してもらった。

政策提言も頂き、やれる範囲のことを実施した。今後は本年12月に大学教授をアドバイザーとして、内容を検討している。

## ② 議会広報紙の編集及び発行について

- ・読まれる広報紙としての取り組み、課題、評価
- ・動画アクセスを増やすための紙面での取り組み、実績

議会広報紙について、「報告書ではなくお便りを読みたい」との意見があり、1ページ目は表紙の見開きにトピックスとしてその時市民が関心のある特集記事にした。

裏表紙にはトピックスを掲載し、表面に来るところに視点を持ってくるように工夫した。一般質問がメインの広報紙から本会議質疑を中心にしていこうという考えに変わってきている。年4回発行している。およそ6割の市民が読んでいるが、もっと広報誌に興味を持ってもらう

ために、市議会モニター制度も行っている。

議会広報紙の編集及び発行については、開かれた議会目指し、市民の方々の意見を活用するために市民参画制度の1つとし、議会モニター制度を導入し、7名が選出されていた。これにより例えば広報誌の内容が、作り手中心の視点から読み手を考えた構成へ改善が見られた。

議会だよりを発行する主旨目的を念頭に置きながら構成しなければならないと思う。

このモニターの中から今回の市議会議員改選時に2名の方が市議会議員になったという。

議会モニター制度を導入し、従来の広報紙は報告書であり、読む気にならないというモニターの意見が原点となり改善を図っている。

モニターの意見を広報紙の改善に反映し、受けて側の目線を意識して取り組む。

読まれる広報になるようにアンケートも実施した。

音声付き多言語対応アプリ「カタログポケット」を使いポルトガル語等にも対応の読み上げ機能が付加されていた。本アプリは電子データを活用し、当局と共同運用をしていた。

③ インターネット等を活用した会議公開について

- ・インターネット活用の内容
- ・議会公開の内容（公開範囲）

議会中継のリアルタイムのライブ配信、複数の検索区分、オンライン報告会等積極的に行われている。

本会議質疑の録画を YouTube 配信している。

今年の12月議会からは本会議のリアルタイム配信が開始されるが、もしも間違った発言等があった場合はその都度会議を止めて対応するとのこと。オンライン委員会は過去2回開催した。

その他にも、zoom を活用し議会報告会をオンラインで開催したが、質問等はチャットで端的な意見が来てテンポ良く行われた。

議会公開は、過去は一般質問のみであったが、議会の本分は本会議質疑であり、今は一般公開、本会議質疑をすべて公開とした。

また、ライブ配信を行っていない議会は議会改革ランキングが低く評価されるため、公開の意識を研ぎ澄ませている。これは議会、議員の本質が問われるものである。

《考 察》

① 出前講座

知立市の議会活動の原則は議会基本条例があることがポイントである。議会基本条例を根拠にして委員会座談会などの独自の活動を展開している。

高校生議会など積極的に取り組んでいるが、前向きにまずは施策を実施して行く挑戦的な姿は、ある部分見習う出来所があるのかもしれない。

その他、今回、知立市議会基本条例についてのご教示もあったが、基本条例を制定してしまうと、条例に縛られることもあると聞いたこともあるので、慎重さが必要と考える。

藤沢市へ行ったとき、座談会は長続きしない話を受けた。そこで藤沢市では「カフェ形式」にした。

今回の視察は開かれた議会・市民に愛される議会を目指す上で大変有意義なものであった。

広聴機能のうち、直接市民から話が気楽に聞けるのは「カフェ形式」が良い。

知立市は市議会としては議会として出来る事は何でもやってみようという意気込みは大いに参考となった。

## ② 議会広報紙の編集及び発行について

市民参画制度の1つとし 議会モニター制度を導入している。これにより例えば広報誌の内容が、作り手中心の視点から読み手を考えた構成へ改善が見られたという。

モニター制度は議会に対して、様々な角度で様々な内容について意見聴取するものだが、こうした受け手側の目線を重視した取り組みは大切である。また、議会の内容を知ったモニター員の中から、新しく議員になった方が生まれているというのも興味深い。

議会広報紙の編集及び発行については、読まれる広報紙の観点から報告書ではなく、議会が議決したという視点から掲載している。

広報紙については特集記事や裏表紙のトピックスに関して参考となった。

御殿場市議会広報誌も、もっと皆さんが読んでくれる様な工夫が大切と考える。

もう少しレイアウトを変えたりする事も必要である。

又、音声付き多言語対応アプリを活用していくとも必要であると感じた、

今回、知立市に視察に行って市民目線で広報誌を作成する必要があると考える。

## ③ インターネット等を活用した会議公開について

インターネット等を活用した会議公開については、今後オンライン会議ができるような体制整備も必要であると思う。

インターネット等を活用した会議公開について一般質問だけではなく議会の本文は本会議質疑として、本会議の質疑についてもHPでの公開としている。これは大いに参考になった。

議会のオンライン公開では議会の本分は本会議質疑との認識に立って、全ての本会議の議事を公開した判断は素晴らしい。

また、コロナ禍において議会での対面出席という事でもオンライン委員会が過去2回開催されたとの事であった。「活動を止めない、議論を止めない。公開を止めない」をスローガンに議会で一丸となって取り組んだ点は、大いに参考にしたい。

《写真》







知立市議会です No. 113  
令和5年5月1日発行

# こころらま

3月26日(日)ついに、知立駅高架化スタートで空港特急車両が登場。  
名古屋本線豊橋方面行きが高架に切り替わったことを記念して、知立市主催で「ミュージックイ記念列車乗車ツアー」が  
開催されました。「記念ヘッドマークを付けたミュージックイ、いざ、出発進行!!」



**特集「知立駅付近連続立体交差事業」  
名鉄本線上り線が高架になりました!**

3月定例会の内容をお伝えします